

第67回岐阜国体 U-16 SHIZUOKA

報告者：武田直隆（静岡選抜監督）

1. 期間・場所

9月27日（木）～10月4日（木） / 静岡県裾野市・岐阜県飛騨市

2. 参加選手 16名

1	山川 卓己	高1	GK	清水エスパルスユース
2	望月 大	高1	MF	清水エスパルスユース
3	鈴木 準弥	高2	DF	清水エスパルスユース
4	小野原 和哉	高1	DF	ジュビロ磐田U-18
5	鈴木 翔太	高1	DF	清水エスパルスユース
6	上原 力也	高1	DF	ジュビロ磐田U-18
7	鈴木 拳士郎	高2	MF	ジュビロ磐田U-18
8	森主 麗司	高1	MF	清水エスパルスユース
9	小谷 春日	高1	MF	藤枝東高校
10	土居 柁太	高2	MF	浜松開誠館高校
11	及川 純平	高1	MF	ジュビロ磐田U-18
12	塚本 陽	高2	MF	清水商業高校
13	西澤 健太	高1	MF	清水エスパルスユース
14	大塚 聖磨	高1	FW	藤枝明誠高校
15	松原 后	高1	FW	浜松開誠館高校
16	加藤 豪	高1	FW	ジュビロ磐田U-18

3. 大会前

昨年のチームからの積み上げとして、チームとしての団結、一体化を出して戦うことをベースとし、GKからのビルドアップ、ポゼッション、サイド攻撃、セットプレーをチームとして取り組んできた。コンセプトはは全員攻撃・全員守備で主導権を握ること、コンパクトでスピーディーなサッカーを展開することを目指し、攻守において良いポジションからサッカーをすることを追求した。

4. スケジュール結果

- 9月27日 集合/PM ミーティング（岐阜国体に向けて 映像）
 9月28日 AM 練習試合 VS 福島県選抜 3-0○（ゲーム後ダッシュ等のTR）
 PM 移動 ミーティング（セットプレーのコンセプト 映像）
 9月29日 AM トレーニング（セットプレーを中心）
 PM ミーティング（膳亀先生、セットプレー映像等）
 9月30日 AM トレーニング（FK 攻撃の確認）
 PM ミーティング（茨城の分析映像等）
 10月1日 AM ミーティング 2回戦 vs 茨城県 6-1○
 PM ミーティング（自チームの改善 15分映像 熊本対策 5分映像）
 10月2日 AM ミーティング 3回戦 vs 熊本県 5-0○
 PM ミーティング（自チームの改善 15分映像 福岡対策 5分映像）
 10月3日 AM ミーティング 準決勝 vs 福岡県 3-5●（延長）
 PM ミーティング（自チームの改善 15分映像 大阪対策 5分映像）
 10月4日 AM ミーティング 3位決 vs 大阪府 1-2●
 PM 移動

5. 大会中の役割

自チームの分析・采配（修正・改善・成長）	担当	武田
対戦相手の分析（スタイル・特徴・セットプレー）	担当	鷲巢
GK・セットプレーのマーキング	担当	大塚
選手・スタッフへのアドバイス	担当	加藤
コンディショニング	担当	MS 高田 湯山

試合後のミーティング・・・静岡チームが成長するために、ゲームでの課題や良かったことを映像を用いたミーティングで振り返りを行った。守備のラインコントロールや攻撃の優先順位や得点、失点シーンからの分析を行った。選手の意図や心理面にもアプローチした。

対戦相手のシステムや特徴、セットプレーの形を確認し、明日に向けての準備を行った。

試合前のミーティング・・・先発の発表。ゲームプラン。セットプレーのマークの確認。1人1人への役割を与える場とした。（例）SDFには前半にクロスを2本上げる。そのうち1本は得点に結びつけることなど・・・SUBの選手には試合の流れを変えたり、試合を決める役割があることをイメージさせた。

最後にモチベーションビデオを見て会場へ向かった。

6. 総括 成果と課題

- ▽GKからのビルドアップやポゼッションに関しては、意図を持って取り組めた。しかし、GKの判断で繋ぐべきか大きくフィードすべきかなどの試合状況を考えたプレーには課題が残った。
- ▽サイドからの攻撃（CKも含めて）で多くの得点を挙げることができた。しかし、SDFとSMFとの関わりが薄く連動した攻撃は少なかった。また、クロスに合わせるポイントが整理されていなかった。福岡戦での西澤・大塚のシーンなど
- ▽個人の守備のレベル向上…チームやグループとしてはイメージを持った守備ができた。しかし、1m、2mのラインコントロール、スライドなど細部の修正やゴール前での守備力には課題が残った。
- ▽選手の選考…①高さ、1対1に強さのあるCDF、②攻守の関わりと状況判断を伴ったGK、③攻撃の基点と決定力を持ったFW等の発掘や育成、選手選考が大切（縦のライン）

7. 示唆

・準備期間について（練習・試合）

マッチメイク…韓国遠征から本大会までほとんど負けることなく本大会を迎えた。プリンス、プレミアのチームが中心のため、練習日を昨年よりも減らした。39日/岐阜、55日/山口限られた時間で大きな成果を上げるには、監督の明確なイメージ・コンセプトとその伝達方法（トレーニング、練習試合、ミーティング、個人への役割など）の工夫や配慮が必要。

・育成について

日本全体の課題ではあるが、180cm以上の選手の発掘。大阪・福岡にはいた。
GK・CDFの発掘、育成 ⇒ 各トレセンでの選考方法、コンバート。

・今後について

全員攻撃、全員守備の中、テクニックとサッカーセンスを備えた選手が、関わりを増やしたサッカーを展開していきたい。アタッキングゾーンでの質の向上や後方の選手の攻撃参加を促したい。守備面では意図的に計画的にチームで奪うことと個人で奪う、弾く力などの守備能力を高めることが必要だと感じた。優勝した兵庫県は2トップの⑩⑩のテクニックとスピードに全員がプレーに関わり、攻守の切り替えも早い素晴らしいサッカーを展開した。静岡県としては、今年は4位という成績となり、改めて、「静岡らしさ」やU16年代に求めることと今後に期待する部分について多くのサッカー関係者と共有していくべきだと感じた。